

第十回 是川縄文の里俳句大会 入賞作品

【一般の部】

小泉静子・選

天位	凍土を耐へ万年の土偶かな	町田市	山中はるの
地位	柿簾なほ木に余る土器の里	八戸市	黒田長子
人位	縄文の神が息づく秋祭り	春日井市	西谷寿
秀逸	縄文の秋思か頬杖の土偶	横浜市	竹澤聡
	冴ゆる夜や里に遺跡を眠らせて	鶴田町	竹浪誠也
	合掌のかたち定まる望の月	松本市	矢口恵子
	不器用な吾も火起こしに挑む秋	蒲郡市	石田賢吾
	遺されて縄目は春の土のいろ	町田市	山中はるの
佳作	朧月じっと見ている土偶の目	長浜市	野口成人
	夏深し縄文人も身を飾る	八戸市	阿保明子
	いのるんの心音を聴く春の木々	八戸市	川守田祐子
	雷走る合掌土偶手を解かず	八戸市	鈴木莉花
	春の闇竪穴住居しめりおぶ	六戸町	新田道子

郡川宏一・選

天位	緑さす土偶の暗き眼窩にも	八戸市	奥田卓司
地位	万緑や嘘の通じぬ土偶の目	南幌町	帝菜
人位	咳すれば土偶聞き耳立てにけり	南部町	工藤義人
秀逸	春雷や縄文土器は割れてをり	水戸市	久信田史夫
	冴ゆる夜や里に遺跡を眠らせて	鶴田町	竹浪誠也
	暮れなずむ遺跡の里に柿点る	八戸市	村田充子
	山羊二匹草食む春や土器の里	八戸市	春日しげ子
	冬の日の透けて無人の観覧車	八戸市	嶋守登
佳作	朧月じっと見ている土偶の目	長浜市	野口成人
	むかし死者甕に収める桜どき	安曇野市	穂苅真泉
	サクラ咲け合掌土偶に祈願する	三沢市	磯田大三
	縄文の継ぎ接ぎの壺風光る	八戸市	赤坂良美
	冬晴を仰ぎ合掌土偶笑む	文京区	遠藤玲奈

佐々木雅翔・選

天位	行く秋や縄文漆の指の跡	三沢市	西村敦子
地位	蜆食ぶ我も縄文人の裔	八戸市	黒田長子
人位	縄文の火起しの子の玉の汗	階上町	岩村多加雄
秀逸	冴ゆる夜や里に遺跡を眠らせて	鶴田町	竹浪誠也
	柿簾なほ木に余る土器の里	八戸市	黒田長子
	合掌のままの土偶や冬ぬくし	蒲郡市	石田賢吾
	雷光や瞬時土偶を袈裟がけに	八戸市	奥田卓司
	残鶯の飛びかう土地の土器土偶	京都市	松本俊彦
佳作	子ら焼ける縄文土器とさつまいも	五戸町	鈴木隆也
	山羊二匹草食む春や土器の里	八戸市	春日しげ子
	冬の日の透けて無人の観覧車	八戸市	嶋守登
	蟬しぐれ遺跡見守る観音像	八戸市	佐々木敦子
	柿干して昔なつかし藁家かな	六戸町	新田道子

佐藤幸子・選

天位	ぬばたまの黒曜石や夜の秋	小千谷市	大渕航
地位	雷光や瞬時土偶を袈裟がけに	八戸市	奥田卓司
人位	蜆食ぶ我も縄文人の裔	八戸市	黒田長子
秀逸	冴ゆる夜や里に遺跡を眠らせて 縄文の火起しの子の玉の汗 緑さす土偶の暗き眼窩にも 縄文の継ぎ接ぎの壺風光る 凍空や尖底土器の立つほどに 縄文の火焰は踊る草いきれ 暮れなずむ遺跡の里に柿点る むかし死者甕に収める桜どき 杯を上げ合掌土偶と居待月 凍土を耐へ万年の土偶かな	階上町 八戸市 八戸市 文京区 柏崎市 八戸市 安曇野市 洋野町 町田市	岩村多加雄 奥田卓司 赤坂良美 遠藤玲奈 泉諒 村田充子 穂苅真泉 岸本靖子 山中はるの
佳作			

鈴木志美恵・選

天位	四次元と対話の土偶夏至近し	岐阜市	田中恭司
地位	夏草や縄文人の身過ぎ跡	八戸市	石垣浩造
人位	出土せる土偶呟く修司の忌	青森市	加藤健一郎
秀逸	咳すれば土偶聞き耳立てにけり 羅の土偶いたこの座すやうに 雷光や瞬時土偶を袈裟がけに 万緑や嘘の通じぬ土偶の目 祈ぎ事を唱ふ土偶や豊の秋 八戸の大地に土偶秋の声 山羊二匹草食む春や土器の里 稔田を行く犬の鈴よく鳴れり 緑さす土偶の暗き眼窩にも 君想い赤漆の櫛夕月夜	南部町 南部町 八戸市 南幌町 六戸町 横浜市 八戸市 八戸市 八戸市 足立区	工藤義人 工藤義人 奥田卓司 帝菜 中澤草子 石川夏山 春日しげ子 下川原悟 奥田卓司 伊藤さゆり
佳作			

吉田千嘉子・選

天位	雷走る合掌土偶手を解かず	八戸市	鈴木莉花
地位	暮れなずむ遺跡の里に柿点る	八戸市	村田充子
人位	蜆食ぶ我も縄文人の裔	八戸市	黒田長子
秀逸	杯を上げ合掌土偶と居待月 縄文を覗く草刈り隊の山羊 緑さす土偶の暗き眼窩にも 夏草や縄文人の身過ぎ跡 遺跡堀る歳月の跡ちろろ鳴く 冴ゆる夜や里に遺跡を眠らせて 武器持たぬ縄文のムラ大夏野 北辺に縄文の空高くあり 縄文の継ぎ接ぎの壺風光る 草そよぎ土器に染み入る虫の声	洋野町 別府市 八戸市 八戸市 八戸市 八戸市 鶴田町 鶴田町 八戸市 八戸市 八戸市 八戸市	岸本靖子 吉田紫紅 奥田卓司 石垣浩造 赤坂良美 竹浪誠也 竹浪誠也 竹浪誠也 下川原悟 赤坂良美 新町薫
佳作			